

書誌第102号追

本州北西岸水路誌

追補第4

令和5年（2023）12月22日発行



海上保安庁

本州北西岸水路誌

追補第4

この追補は、令和4年3月刊行の本州北西岸水路誌の記載事項を更新するもので、令和5年11月17日までに入手した資料を基に編集したものです。

追補は、更新情報を記載した「本文」と、それを検索するため、ページ番号等を記載した「索引」から構成されています。

「索引」については、更新箇所の表題や港名等を記載し、ページ番号順に並べています。

「本文」については、本追補の更新箇所は、灰色背景で赤色文字にて示しています。

【】で囲んだ内容は、削除や差し替えを行うことを意味しています。

図の挿入等によりページ内に収まらない場合は、水路誌本誌とのページ番号を整合させるため、追補においては、便宜的に枝番号を付しています。

令和5年12月22日

海上保安庁海洋情報部

注 意

海上保安庁は、各国が発布した諸法規、宣言、海図及び水路通報・航行警報並びに船舶等からの視認報告のうち、船舶交通の安全の確保と海洋環境の保全という観点から、航海の安全及び環境保全に影響を与える可能性のある情報については、水路通報及び航行警報により周知するほか、海上保安庁の海図その他の航海用刊行物にも掲載するようにしています。

これらの情報を利用するにあたっては、海上保安庁によるこれらの情報提供は、航海の安全等のための利用を目的としており、その内容は日本政府がこれらの諸法規、宣言等を承認したことを意味するものではない点に留意してください。

ページ	更新箇所(表題、港名等)	備考
62	浜田港	
73	浦郷港	
83	境港	追補第2の当該ページは無効
141	伏木富山港伏木区及び付近	追補第3の当該ページは無効
147	生地鼻～直江津港	追補第3の当該ページは無効
159	新潟港東区(及び付近)	
171	酒田港	
175	秋田船川港	追補第3の当該ページは無効
177	秋田船川港秋田区	追補第3の当該ページは無効
182	能代港	追補第3の当該ページは無効

三 階 山	34° 52.4' N 132° 05.0' E	高さ 379m、山頂の北北西方約 480m の山腹に 2 基の無線塔（各パラボラアンテナ付、灰色、水銀灯を点ずる）がある。水銀灯は良い夜間目標である。
大島〔天神島〕	34° 52.7' N 132° 02.7' E	西方約 300m に白色タンク群がある。
8 サ イ ロ	34° 52.8' N 132° 03.4' E	セメント用
無 線 塔	34° 54.1' N 132° 04.5' E	高さ 101m、赤白塗

架橋 漁港ふ頭と瀬戸ヶ島間に、浜田マリン大橋（34° 53.8' N 132° 03.7' E、高さ約 18m）がある。

入港上の注意 馬島～瀬戸ヶ島間を通航する場合は、潜堤や鶴島グリなどの險礁に注意する必要がある。馬島の北東岸から北東方へ延びる馬島防波堤がある。

漁港区へ出入するときは、防波堤が高いので行会い船の船体が隠れることがあるので注意する必要がある。

冬季は港口付近で、高波が立ち航行困難になることがある。海上平穏な日には、港口付近に多数の遊漁船が出ている。

夜間入港時、小伊勢島（34° 54.0' N 132° 02.2' E、高さ 1.5m）は馬島灯台の照射灯に照らされているが、北方及び東方からの接近時には視認しにくく、また西方からの港口への接近は港口と街の灯りが重なり、出港船等が視認しにくいので注意を要する。

航泊制限 引火性危険物積載タンカーの引火による事故を防止するため、一般船舶は、港内に停泊中の同タンカー（タンク船を含む）から 30m 以内の海面に立ち入ることが禁止されている。なお、同タンカーは、港内停泊中、夜間でも容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕等を掲げている。

水先 水先法という水先区ではないが、水先類似行為者がいるので、浜田港運（株）（TEL:0855-27-0072）を通じて申し込む。水先類似行為者は、検疫錨地で乗船する。

港湾施設 商港区には西側に長浜ふ頭、東側に福井ふ頭があり、漁港区には中央に漁港ふ頭がある。

商港区

名 称	概 位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W× 隻)	備 考	
長 浜 ふ 頭	1号岸壁	34° 52.6' N 132° 02.7' E	185	9～9.5	15,000×1	
	2号岸壁	34° 52.6' N 132° 02.6' E	130	6.5～7	5,000×1	
	3号岸壁	34° 52.6' N 132° 02.8' E	70	5～7	1,000×1	
	4号岸壁	34° 52.7' N 132° 02.6' E	90	6	2,000×1	
	1～3号物揚場	34° 52.5' N 132° 02.5' E	延長 330	3～4	500×3	
長浜栈橋	34° 52.5' N 132° 02.6' E	120	北側 3～7.5 南側 3～7.5	—		
福 井 ふ 頭	1号岸壁	34° 52.7' N 132° 03.4' E	130	7～7.5	5,000×1	浅所を示す 2 灯 付浮標がある。
	2号岸壁	34° 52.7' N 132° 03.5' E	90	5～7	2,000×1	
	3号岸壁	34° 52.9' N 132° 03.3' E	240	11～14	30,000×1	多目的クレーン 1 基
	4号岸壁	34° 52.8' N 132° 03.3' E	170	8	5,000×1	ガントリークレーン 1 基

浦 郷 港 (36° 05.2′ N 132° 59.8′ E) (海図W116) (JP UA0)



(2020年6月撮影)

港種 港則法適用港

概要 西ノ島中央部にある港で、漁港でもある。水産物の流通拠点、漁船の避難港として、また島前の表玄関として発展している。

港内北東部の美田湾(36° 05.9′ N 133° 00.6′ E)に地方港湾の美田港がある。湾内の幅は狭いが小型船の好錨地になっている。湾内東側には小型船用の係船施設がある。港奥の船越に幅約 12m、長さ約 300mの浅い小さな運河(船引運河)があり、北側の港へ通じる。また、浦郷港西方の赤ノ江及び由良湾に浦郷漁港の施設がある。

目標

地物名	概 位	備 考
獅子ヶ鼻	36° 05.0′ N 133° 00.4′ E	高さ 47m
島根鼻	36° 05.0′ N 132° 59.5′ E	
中央公民館	36° 05.5′ N 132° 59.6′ E	白色
警察署	36° 05.5′ N 132° 59.8′ E	4階建、無線塔がある。

港湾施設

名 称	概 位	長 さ (約m)	水 深 (約m)	係船能力 (D/W× 隻)	備 考
本郷岸壁	36° 05.5′ N 132° 59.6′ E	95	4~6.5	—	突堤東側、前面に陰悪物がある。
		70	未測	—	突堤西側、前面に陰悪物がある。
2号・7号岸壁	36° 05.5′ N 132° 59.5′ E	180	未測	—	
11号岸壁	36° 05.3′ N 132° 59.5′ E	180	未測	—	

島根鼻の北東方約 300m及び同 650m付近から北北東方に延びる浮消波堤(ともに長さ約 150m、約 200m)には、両端に緑・赤灯、中央に黄灯がある。

中野 1 号岸壁	35° 32.2' N 133° 15.1' E	240	12	30,000×1		
外港 1 号岸壁	35° 32.9' N 133° 15.3' E	370	9	10,000×2		
外港 2 号岸壁		260	7.5	5,000×2		
係 船 岸 壁	35° 32.9' N 133° 14.4' E	980	3~7	—	巡視船係留、定期船・渡船発着	
内 港	35° 32.8' N 133° 13.4' E	1 号岸壁	200	6	3,000×2	
		2 号岸壁	91	4.5	1,000×1	
		3 号岸壁	163	4~5.5	3,000×1	
		4 号岸壁	130	6.5	3,000×1	
竹 内	35° 31.7' N 133° 15.2' E	1 号岸壁	100	7.5	2,000×1	
		2 号岸壁	100	7	2,000×1	
		3 号岸壁	100	7.5	2,000×1	
		4 号岸壁	130	7.5~8	5,000×1	
竹内南 1 号岸壁	35° 31.4' N 133° 15.5' E	300	10.0	約 130,000 G/T×1	クルーズ船	
森 山 岸 壁	35° 32.9' N 133° 13.1' E	300	2~4.5	700×5		
外江 1 号岸壁	35° 32.5' N 133° 12.9' E	300	3.5~6	700×5		
外江 2 号岸壁	35° 32.3' N 133° 12.6' E			700×5		
中 野 岸 壁	35° 32.0' N 133° 14.7' E	550	3.5~4	700GT×8		
江島 1 号岸壁	35° 31.2' N 133° 11.5' E	165	9	10,000×1		
江島 2 号岸壁		130	7.5	5,000×1		

上表のほか、境港防波堤灯台の南西方約 1km の石油基地前面に棧橋(1~4 号)がある。

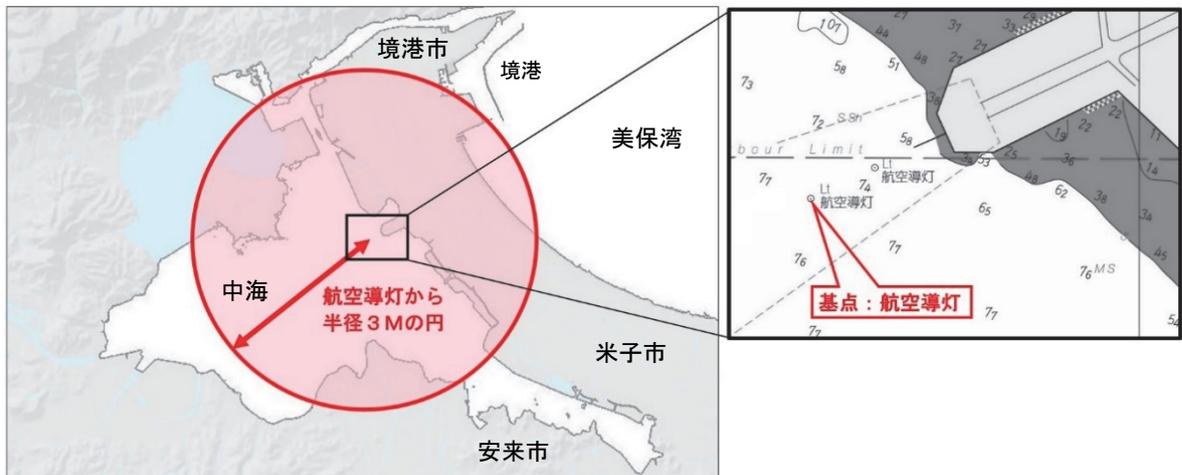
最大入港船舶 2023 年 6 月 25 日、客船 MSC ベリッシマ (171,598 t、喫水 8.7m) が竹内南第 1 号岸壁に着岸した。

荒天時の注意 境海上保安部では、米子空港周辺海域における荒天時の走錨等に起因する事故防止のため、次のとおり錨泊の自粛を指導している。

自粛海域：中海に設置されている米子空港の航空導灯（西側）(35° 29.1' N 133° 13.1' E)を中心とする半径 3M 以内の海域（美保湾を除く）

自粛期間：気象庁から鳥取県米子地区又は島根県松江地区に「暴風」又は「暴風雪」の気象警報が発表又は発表が予測されるときから同警報が解除されるまでの間。

第 9 図 荒天時の錨泊自粛海域図



がある。伏木指向灯（白光、227.9° を中心とする幅 5° ）は可航水路を示している。

架橋 小矢部川河口付近に伏木万葉大橋（36° 47.3′ N 132° 03.5′ E、高さ約9m）がある。

入港上の注意 伏木航路両側に大型定置網が多数設置されており、大型船が航行できる場所が限られている。可航幅を示すための指向灯が設置されているので、この範囲から逸脱しないよう注意が必要である。

また、小矢部川の東側にある庄川を小矢部川と誤認しないようにすること。小矢部川上流からの流砂により、水深が減少する。

港湾施設

名称	概位	長さ (約m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
左岸1～2号岸壁	36° 47.6′ N 137° 03.8′ E	310	5～8	10,000×2	
左岸3～4号岸壁	36° 47.5′ N 137° 03.6′ E	370	2.5～4.5	15,000×2	
左岸5号岸壁	36° 47.4′ N 137° 03.5′ E	90	2	1,000×1	
右岸1～2号岸壁	36° 47.5′ N 137° 04.0′ E	440	3～5	5,000×4	
右岸3～4号岸壁	36° 47.5′ N 137° 03.8′ E	370	3～4.5	15,000×2	クレーン1基
右岸5号岸壁	36° 47.4′ N 137° 03.7′ E	130	2.5	5,000×1	
万葉1号岸壁	37° 48.1′ N 137° 04.0′ E	130	6～7.5	5,000×1	
万葉2号岸壁		190	9.5～10	15,000×1	
万葉3号岸壁	37° 48.2′ N 137° 03.9′ E	280	12～12.5	30,000×1	ガントリークレーン1基。 耐震岸壁

最大入港船舶 2015年5月18日、旅客船ボイジャー・オブ・ザ・シーズ（138,194t、喫水9.1m）が万葉3号岸壁に着岸した。

海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
伏木海上保安部（港長）	0766-44-0196	新潟検疫所伏木富山出張所 （富山空港出張所へ連絡）	076-428-4160
大阪税関伏木税関支署	0766-44-6173	名古屋植物防疫所伏木富山支所	0766-44-0954
北陸信越運輸局富山運輸支局	0766-44-1367	富山県伏木港事務所	0766-44-0277

通船 通船がある。

補給 清水の補給ができる。給水船及び給油船がある。

修理 小造船所がある。

廃油処理施設

事業者名	申込先	利用時間	処理する廃油の種類	
			廃重質油	廃軽質油
㈱ダイセキ	北陸事業所 076-275-6585	0900～1600	水バラスト、スロップオイル、コレクトオイル、タンク洗浄水、ビルジ、スラッジ、その他	水バラスト、タンク洗浄水、スロップオイル、スラッジ、その他

医療施設

名称	電話番号	備考
高岡市民病院	0766-23-0204	
高岡ふしき病院	0766-44-1181	

へ開いている。港奥東側の魚市場前面に-4.5m岸壁（延長 175m）があり、同岸壁南方に突堤に囲まれた小さな船だまりがある。また、突堤西側に-4.5m岸壁（長さ 60m）、同突堤南方に-3m岸壁がある。

生地鼻～直江津港（海図W120）

概要 生地鼻～宮崎鼻間の約 10Mは、黒部川下流の扇状地で、海岸は小石や卵石が散在し、断続する松林の後方は広大な耕地である。宮崎鼻～姫川河口（姫川港の西側）間の約 13Mの海岸は低く、急深で、後方の高地は陸側の山脈に連なる。姫川河口～直江津港間の約 22Mもほぼ同様で、ほぼ中央に鳥ヶ首岬が突出する。姫川河口～鳥ヶ首岬間のほぼ中央に**能生港**（37° 06.9′ N 138° 00.0′ E）（港則法適用港）（JP NOU）がある。

潮流 黒部川河口付近では、上げ（下げ）潮流は北東方（南西方）へ流れるようであるが、流速は 0.5kn 以下である。鳥ヶ首岬の沖合には、まれに流速 1kn を超える東流がある。

目標

地物名	概 位	備 考
宮 崎 鼻	36° 58.3′ N 137° 35.2′ E	丘陵が海側からしだいに高くなって、陸側の高い山脈に連なっている。鼻上及び北方の防波堤に灯台がある。
黒 姫 山	36° 58.6′ N 137° 47.4′ E	高さ 1,222m、円すい形
鳥ヶ首岬	37° 10.3′ N 138° 05.8′ E	岬端は高くないが、陸側は急に高くなり、高さ 300mを越え、頂部には、風力タービンが 2 基ある。 鼻岬 上に灯台がある。
風力タービン	36° 57.8′ N 137° 30.5′ E	36° 57.3′ N 137° 29.9′ Eの海岸線地点から、各風力タービン間を繋いだ海底線が敷設されている。 各風力タービンには、施設灯が設置されている。
	36° 58.1′ N 137° 31.2′ E	
	36° 58.0′ N 137° 31.5′ E	

鳥ヶ首岬の陸側の山脈は、**青田難波山**（高さ 949m）、**妙高山**（高さ 2,446m）、**火打山**（高さ 2,462m）、**焼山**（高さ 2,400m）がそびえ、5、6 月ごろは、雲や霧が山並みの全部又は一部を覆い、夏には、白雲が山頂を覆っていることが多い。しかし、日没に近づくと雲、霧は晴れることがある。

姫 川 港（37° 03.0′ N 137° 51.2′ E）（海図W1027）（JP HMK）



（2020 年 4 月撮影）

港種 港則法適用港、開港、植物検疫の港

信号 福島潟放水路及び新発田川放水路からの洪水放水情報を示す私設信号灯が南ふ頭木材 2 号岸壁西端 (37° 58.3' N 139° 14.1' E) 及び西 2 号栈橋北西 (37° 59.5' N 139° 12.9' E) に設置されている。

信 号	信 文	備 考
ㄷ	放 流 予 告	福島潟放水路及び新発田川放水路からの放流予告と放水口の流速を表示
FH	福島潟放水路	
SH	新発田川放水路	
0.0	流速 0.0kn	
0.5	流速 0.5kn	
1.0	流速 1.0kn	
↑	1.0kn 以上	

港湾施設

名 称	概 位	長 さ (約m)	水 深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備 考	
東 1 号栈橋	37° 59.6' N 139° 13.7' E	84	13.5	50,000×1	ドルフィン	
東 3 号栈橋	38° 00.0' N 139° 13.6' E	394	12~13.5	102,000×1	ドルフィン、北西端にシバース灯がある。	
中央ふ頭東 1 号岸壁	37° 59.4' N 139° 13.6' E	260	12~13	40,000×1		
中央ふ頭東 2 号岸壁	37° 59.2' N 139° 13.7' E	260	12.5~13	40,000×1		
東ふ頭 1 号岸壁	37° 58.6' N 139° 14.1' E	280	14	50,000×1	クレーン	
南ふ頭	木 材 1 号岸壁	37° 58.3' N 139° 14.2' E	185	9.5~10	18,000×1	東側に木材整理場がある。
	木 材 2 号岸壁	37° 58.3' N 139° 14.1' E	185	9.5~10	18,000×1	
西ふ頭	1 号岸壁	37° 58.1' N 139° 13.9' E	130	6~7	5,000×1	耐震岸壁、コンテナクレーン
	2 号岸壁	37° 58.2' N 139° 13.8' E	185	9~9.5	15,000×1	コンテナクレーン
	3 号岸壁	37° 58.2' N 139° 13.6' E	350	11.5~12	30,000×1	コンテナクレーン
	4 号岸壁	37° 58.1' N 139° 13.4' E	250	11.5~12	30,000×1	耐震岸壁、コンテナクレーン
中央ふ頭西岸壁	37° 59.0' N 139° 13.5' E	232	12~12.5	40,000×1		
西 3 号栈橋	37° 59.5' N 139° 13.1' E	118	7.5	5,000×2	各 A・B 両面がある。	
西 2 号栈橋	37° 59.5' N 139° 13.0' E	135	7~7.5	5,000×2		
西 1 号栈橋	37° 59.6' N 139° 13.0' E	135	6.5~7.5	5,000×2		

また、港奥の防波堤内に船だまり（水深 4m 前後）がある。

補給 清水及び燃料油の補給ができる。

海事関係官公署

官 公 署 名	連 絡 先
新潟県新潟地域振興局新潟港湾事務所東港分所	025-256-2503
東京税関新潟税関支署東港出張所	025-256-3458

酒 田 港 (38° 56.5′ N 139° 48.1′ E) (海図W145、W1160) (JP SKT)



(2020年8月撮影)

港種 特定港、開港、検疫港、出入国港、家畜検疫の港、植物検疫の港、重要港湾

概要 新潟港と秋田船川港のほぼ中間にある港で、港内は第1区、第2区及び第3区に分かれている。

この港は元来、最上川河口に発達した河口港であるが、河流の影響が大きかったので河口を分離して現在の形となり、北港地区及び本港地区に分かれている。

第2区の入口は狭く（可航幅約190m）北北西方へ開き、冬季は波浪と吹雪のため入港が困難になることがある。

気象 冬季の季節風は、しばしば暴風雪となって吹き続ける。強風日数（最大風速10m/s以上）は、年間約90日あるが、このうち約70%が11月～翌年3月の間にある。

3～5月頃、日本海を通過した低気圧が、しだいに発達して太平洋側に抜けるとき、風向が東～南東から急激に西～北西に変化して、酒田付近で大しけとなることがある。

霧は、年間を通じて余り発生しないが、発生しても4～5時間で消散するのが常である。

海難 特に冬季、西～北西の風が強く吹くときには、波高が7～8mに達することがあり、入港は困難となる。

このようなときに、港外の船舶は錨鎖が切断されたり、圧流されて乗り揚げたりした例がある。

目標

地物名	概 位	備 考
煙 突	38° 58.0′ N 139° 49.9′ E	高さ184m、銀色、火力発電所構内
酒田灯台	38° 56.8′ N 139° 49.0′ E	高さ41m、白塔形
塔	38° 55.1′ N 139° 49.7′ E	高さ28m、記念灯台
無 線 塔	38° 54.9′ N 139° 50.1′ E	赤白塗、NTTパラボラアンテナ
風力タービン	38° 55.7′ N 139° 48.9′ E	
風力タービン	38° 55.9′ N 139° 48.8′ E	高さ100m
風力タービン	38° 56.1′ N 139° 48.9′ E	
風力タービン	38° 56.3′ N 139° 49.0′ E	

針路法 第2区、第1区へは、第2北防波堤と南防波堤の中央付近を通過し、針路160°に変針して南防波堤に沿って港奥に進む。

北港地区へは、港口中央を通過後、煙突（目標の項参照）を目標に北港地区北港北防波堤に平行して進み、水路に沿って変針したあと適宜、岸壁に向かう。

入港上の注意 海難の項参照。融雪期の5月及び梅雨期には川が増水し、流れも強くなり、港口付近は

139° 54.5′ E) (港則法適用港) (JP KNO)、平沢港 (39° 17.9′ N 139° 57.5′ E) (港則法適用港) (JP HSW)、本荘港 (39° 23.4′ N 140° 00.4′ E) (港則法適用港) (JP HON)、秋田船川港がある。

秋田船川港から入道埼までの海岸は、西方へ突出する男鹿半島の南、西岸に当たり、樺漁港、戸賀港 (39° 57.2′ N 139° 42.7′ E : 海図W1185) (港則法適用港) (JP TOJ)がある。この区間は、冬季、西寄りの季節風に対する遮蔽物がなく、乗揚げ海難が発生し、錨泊に適さないため、酒田及び秋田海上保安部では、沿岸海域での錨泊自粛を指導している。

目標

地物名	概位	備考
三 崎	39° 07.1′ N 139° 52.2′ E	灯台がある。
無 線 塔	39° 07.2′ N 139° 53.6′ E	高さ地上20m、パラボラアンテナ付
鳥 海 山	39° 06.0′ N 140° 02.9′ E	高さ2,236m、南方からは3頂に、北方からは2頂に見える円すい形の峰で、沖合い遠距離から見える。頂は雲に隠れていることが多い。8、9月を除き雪の消えることがない。
飛 島	39° 12.0′ N 139° 33.4′ E	平らで低い島、北部の高森山の頂に灯台がある。周囲は砂礫浜で諸岩があり、特に島の北端と南西端とに多い
無 線 塔	39° 39.9′ N 140° 04.4′ E	6基、大森山の山頂、赤灯を点ずる。
寒 風 山	39° 56.0′ N 139° 52.5′ E	高さ355m、顕著な展望台がある。八郎潟からしだいに高く3頂を成し、東頂が最も高い。西方からは見えない。
鵜 ノ 崎	39° 51.5′ N 139° 49.2′ E	高さ32m、灯台がある。
塩 瀬 崎	39° 51.5′ N 139° 45.4′ E	台形の崎で、灯台がある。
本 山	39° 54.4′ N 139° 45.2′ E	男鹿半島の最高峰で高さ715m、レーダドーム1基があり顕著
入 道 埼	40° 00.3′ N 139° 42.1′ E	険しい岬角、灯台 (黒白横線塗) がある。
水 島	40° 00.8′ N 139° 42.0′ E	南北の長さ約550m、高さ3.7mの岩で西寄りの強風時に激しく破浪する。付近は常に北流があり、北寄りの風が強いと破浪が激しくなる。水島中央部にある白塗柱は、入道埼灯台に付設の照射灯で照らされる。

秋田船川港 (39° 51.3′ N 139° 56.3′ E) (海図W147、W148、W1192) (JP AFG)

港種 特定港、開港、検疫港、出入国港、家畜検疫の港、植物検疫の港、重要港湾

概要 男鹿半島の基部南東側にある旧秋田港と旧船川港とが合併した港で、港内は秋田区と船川区に分かれている。秋田区は亜鉛製錬所、火力発電所、製紙工場等が、また船川区には石油備蓄基地及び木材関連工場がそれぞれ立地し、両区とも多数のタンカー及び木材船が出入港している。秋田区では、着床式洋上風力発電施設所(風力タービン)が13基(黄灯付)及び海底電力線が設置されている。

冬季の季節風時には、秋田区第1区内への船舶の出入港は容易ではないが、同区内は四方の風に対して安全である。船川区は東方へ開いており、比較的入出港は容易である。

気象 冬季の季節風は強烈で、3～4日間にわたって吹き続けることが多い。

海難 特に冬季、西～北西の風が強くとくときには、波高が7～8mに達することがあり、入港は困難となる。

このようなときに、港外の船舶は錨鎖が切断されたり、圧流されて乗り揚げたりした例がある。

目標

地物名	概位	備考
煙突	39° 47.1' N 140° 02.9' E	高さ189m、赤白塗、火力発電所構内
展望塔	39° 45.2' N 140° 03.7' E	高さ143m、セリオン
煙突	39° 44.6' N 140° 03.5' E	高さ101m、赤白塗、製紙工場構内

針路法 北方から入港する場合は、塩瀬崎の南方約2Mから針路105°で進み、秋田区の火力発電所にある煙突（目標の項参照）を095°に向首して、第1区入口に接近する。

南方から入港する場合は、針路000°で寒風山に向首して進み、秋田区に近づくころ火力発電所の煙突が見えてくるので、それを095°に見て変針、以後、同煙突に向首し第1区入口に接近する。

入口に近づいたならば、第2南防波堤先端部及び新北防波堤北西方約0.8Mから約6.1M付近の定置網（黄色浮標（黄灯付）4個付）に注意して、製紙工場の煙突（目標の項参照）を目標にして南、北両防波堤の中央を進み、掘下げ水路を通過して岸壁へ向かう。

入港上の注意 北西風の強吹時の入港は危険であり、大雨の後には、入口付近で約2knの外方へ向かう流れがあるという。夜間は、旧北防波堤先端の標識灯（39° 45.7' N 140° 02.6' E）（緑色）は、光力が弱く見えにくいので注意を要する。

港則

	信号	目的地に関する記号	信文
進路表示信号（平成7年海上保安庁告示第35号）及び船舶自動識別装置の目的地に関する記号（平成22年海上保安庁告示第94号）	2代・N	N	秋田北防波堤灯台から旧北防波堤先端まで引いた線以北の係留施設に向かって航行する。
	2代・E	E	旧北防波堤先端から99°に陸岸まで引いた線（以下「A線」という。）以北の係留施設に向かって航行する。
	2代・E・N	EN	ENEOS 棧橋に向かって航行する。
	2代・E・C	EC	A線の南側の旧雄物川東側の中島岸壁から下浜ふ頭に至る間の係留施設に向かって航行する。
	2代・E・S	ES	A線の南側の旧雄物川東側の寺内ふ頭以南の係留施設に向かって航行する。
	2代・W	W	A線の南側の旧雄物川西側の係留施設に向かって航行する。

港湾施設

名称	概位	長さ（約m）	水深（約m）	係船能力（D/W×隻）	備考	
外港-13m 1号岸壁	39° 45.9' N 140° 02.4' E	270	12.5	50,000×1	クレーン2基、上屋がある	
外港-13m 2号岸壁	39° 46.1' N 140° 02.3' E	260	13	40,000×1		
飯島-11m 岸壁	39° 46.9' N 140° 02.1' E	190	9.5~10.5	18,000×1		
飯島-7.5m 岸壁	39° 46.9' N 140° 02.2' E	260	3.5~7	5,000×2		
飯島-5m 岸壁	39° 47.2' N 140° 02.2' E	130	4~4.5	1,000×1		
大浜	-4.5m 1号岸壁	39° 46.2' N 140° 03.0' E	60	3	700×1	
	-4.5m 2号岸壁		60	3	700×1	
	-10m 1号岸壁	39° 46.4' N 140° 03.0' E	185	9.5~10	15,000×1	
	-10m 2号岸壁	39° 46.2' N 140° 02.9' E	185	9~9.5	15,000×1	

能代港 (40° 12.4' N 139° 59.1' E) (海図W1292) (JP NSR)



(2020年7月撮影)

港種 港則法適用港、開港、出入国港、植物検疫の港、重要港湾

概要 入道埼の北東方約19Mにある米代川河口の南側にある港である。以前は、米代川の河口を港として利用していたが、度重なる洪水による土砂の堆積で港の機能を発揮できなかった。このため、米代川と港を分離した掘込式港湾として整備し、主に木材関連工場が立地している。着床式洋上風力発電所(風力タービン)が20基(黄灯付)設置され、各基から海底電力線が40° 11.3N 139° 59.1Eの海岸線地点まで敷設されている。

目標

地物名	概位	備考
煙突	40° 11.5' N 139° 59.4' E	高さ168m、青白塗
サイロ	40° 12.5' N 140° 00.1' E	灰色、セメント用
展望台	40° 12.5' N 139° 59.9' E	高さ27m、白色

水先 水先法にいう水先区ではないが、秋田船川水先区水先人会が要請に応じる(第1編総記 第6章水先参照)。

入港上の注意 北から北西風が強吹する時は、港口付近において風浪、うねりを真横から船尾に受けるため保針が困難である。

港湾施設

地物名	概位	長さ(約m)	水深(約m)	係船能力(D/W×隻)	備考
大森岸壁	40° 12.7' N 139° 59.6' E	260	13	40,000×1	
中島1号岸壁	40° 13.1' N 140° 00.7' E	130	7.5	5,000×1	
中島2号岸壁	40° 13.1' N 140° 00.8' E	130	7.5	5,000×1	
15,000トン岸壁	40° 12.7' N 140° 00.2' E	185	10	15,000×1	

上表のほか、外港南防波堤基部北側に揚炭60,000トン棧橋(係船能力60,000D/W×1隻)などがある。

最大入港船舶 2000年11月23日、鉱石運搬船 能代丸(53,935t、喫水12.58m)が、東北電力能代火